柏陵

題字
相川徳平（旧中1回卒）
発行
埼玉県立本庄高等学校同窓会
会長　狩野　輝昭
事務所　〒367-0045
本庄市柏1丁目4番1号
（本庄高等学校内）
TEL070-1370-2257
FAX048-611-9340
HP http://www.honko-dosokai.jp/
印刷　㈲本庄孔版社

平成26年度通常総会

新会長に 狩野輝昭氏（高18回卒）を選出

本会の平成26年度通常総会が6月14日、埼玉グランドホテル本庄で来賓、役員、ゲストなど67名が出席し開催された。

総会では、前年度事業報告、決算報告に続いて新会長に狩野輝昭氏（高18回卒）を選出した（新役員は下段に掲載）。

26年度事業計画

☆毎月一回定例本部役員会
4月　母校入学式出席
5月　会計監査
6月　通常総会
　　母校柏樹祭見学
7月　母校へ助成金、育英資金贈呈
9月　母校体育祭見学
　　支部長会議を開催
10月　会報「柏陵」第45号発行
11月　母校学校公開授業参観
1月　支部長会・役員会新年会
3月　新会員へ記念品贈呈
　　会費納入書配布
　　同窓会入会式
　　新理事委嘱式
　　母校卒業式出席

IT活用で交友の場を

会長　狩野　輝昭（高18回卒）

第10代本庄高校同窓会会長に就任いたしました、高18回卒の狩野輝昭と申します。

名誉と伝統ある、わが母校の同窓会長にご指名いただきましたことは身に余る光栄であり、会長に就任したからには、微力ではありますが母校発展のため、全力を尽くす所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本庄高校は文武両道の伝統校であります。しかし近年、進学をはじめとして学校全体に衰退の感がいたします。母校の復興を目指すため、同窓会と学校が一体になり、復興に全力を傾注したいと思います。同窓会会員の方々のお力添えはもとより、ぜひ熱い母校愛を注いでいただき、母校発展のためのご尽力を心からお願い申し上げます。

今後、IT（フェイスブック・ライン・メール・ホームページ）を活用し、情報の共有を図り、後輩や同僚とも交友ができる情報環境を整備してまいります。

生徒には常にチャレンジ精神・創業者精神を持ち、上を目指し、世のため人のために役に立てる努力を期待しております。

同窓会ホームページ開設のご案内

同窓会活動の活性化と会員の親睦を図るため、10月1日からホームページを開設しました。ごらんになった皆様には、友人・後輩・同窓会などで広くPRをお願いします。

HPアドレス
http://www.honko-dosokai.jp/

平成26年度　本部役員・評議員・支部役員

〔本部役員〕

会長　狩野　輝昭　高18
副会長　冨田　浩郷　高6
副会長　山口　康裕　高10
副会長　白本　直子　高12
副会長　茂木　秀夫　高13
副会長　斉藤　勝次　高14
副会長　柿木　左近　高16
副会長　高橋　忠雄　高18
副会長　須田　税　高20
副会長　長沼　章　高25
副会長　駒沢　三郎　高27
副会長　永井　保之　高27
副会長　韮塚　雄一（教頭）
副会長　奥　千加（教頭）
副会長　相模　幸之（教頭）
会計　志塚　保雄　高18
会計　川上　芳男　高18
会計　相川　一浦　高27
監事　新井　次郎　高25
監事　黒澤　敬子　高31
幹事　平沢　正利（事務部長）高28
顧問　埴岡　正人（校長）高27

〔評議員〕

議長　戸谷　全克　高1
評議員　竹並栄一郎　併2
評議員　塚越　壽衛　高2
評議員　内野ヨシエ　女16
評議員　茂木　延雄　高3
評議員　江原　清吉　高4
評議員　飯塚　隆司　高5
評議員　松本　泰昌　高8

〔支部役員〕

（支部長）
宮本町　荒井　稀索　高3
泉町　竹並栄一郎　併2
照若町　高橋　利夫　高4
七軒町　町田　一徳　高5
仲町　飯塚　能成　高25
本町　清水　正一　高6
南本町　村田敬次郎　中22
末広町　野枝　直治　高5
朝日町　佐藤　達雄　高26
藤田　内田　睦夫　高12
仁手　志塚　弘良　高14
旭　亀田　本二　高4
今井　荒井　正純　高15
児玉　吉田　英一　高22
美里　青木　信夫　高9
神川　伊藤　政雄　高20
神泉　秋山　欣彦　高28
上里七本木　久保　安雄　高14
岡部　新　克之　高18
深谷　小暮　隆史　高17
熊谷　栗原　健昇　高13
県庁県南　福島　勤　高25
伊勢崎　神倉　喜良　高17
新町　高嶋　重皓　高6
東京　黒澤　信男　高1
本庄市役所　駒沢　三郎　高27
児玉郡市教職員　福島　彰　高30

近況

新たなスタート

校長　埴岡　正人（高二十七回卒）

昨年度から進学重視型単位制として新たなスタートを切った本校ですが、3年前からセミナー棟の新築、校舎の改修工事等が行われてきました。この夏ようやく工事も終わり、これから少しは、落ち着いた環境で教育活動ができるものと考えているところです。

90周年記念事業で計画していただいた「セミナー棟二階への空調設備設置」も県による新築工事の中でやってもらうことで、学校では、全日制食堂、定時制食堂への空調設備設置をさせていただくことにしました。

全日制食堂につきましては、今年5月の連休に工事を行い、この夏は快適な昼休みを過ごすことができました。定時制食堂につきましては、食堂がある管理棟の改修工事がこの夏に行われましたので、来年の夏には利用できるように工事をする予定です。

また、6月に行われた総会の席上、二つの食堂の空調設備設置についてお話をさせていただき、さらに残金が予想されましたので、残金を利用してセミナー棟前に本校の校歌碑を設置したいとの提案をご了解していただきました。今年度末までには、新しい校歌碑が設置できますよう準備を進めたいと思っております。

当事業には、多くの会員の方から多大な寄付をいただきました。繰り返しになりますが、この場をお借りし改めてお礼申し上げます。

セミナー棟一階には、開放感あふれる新図書館が開館しました。年間36回にも及ぶ土曜日には、地域開放も行っております。古を偲ぶもの（旧正門、プール等）もだんだんと少なくなってきてしまいましたが、それでも、本校へ足をお運びいただき、当時の思い出に浸りながら、図書館でのんびり時間を過ごすのもいいのではないかと思います。

同窓会員の皆様には、本校の教育活動に対しまして今後も変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

生徒の活動・活躍から

全日制教頭　奥　千加

第6次東北復興ボランティア

7月19日・20日、一泊二日の日程で宮城県亘理郡山元町へ、第6次東北復興ボランティアに行ってきました。参加した生徒は46人です。

現地では、本庄高校OBの坂本さんとNPO『未来に向かって助け合い』の福井さんたちが私たち一行を温かく迎えてくれました。プラットフォームしか残っていない坂元駅跡や中浜小学校校舎の見学。仮設住宅にも訪問し、今も仮設に一人残されている高齢の皆さんのお話をお聞きしました。

まだ多くの方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。高齢の方が多く、床が低いゆとりのない住まいでは大変そうでした。一人になると、当時のことが頭の中によみがえり「あの時もしこうしていたら…」という自責の念にかられるというお話しには胸が締め付けられる思いがしました。

翌日は、牛橋区民会館から歩いて行ける桑畑で除草作業をしました。

帰路のバスの中では、全員が今回の活動の感想を発表し合いました。東北復興ボランティアは、3年間の計画で今年が最後の年ですが、多くの生徒から継続したいとの思いが語られました。

水泳部関東大会出場

6月28日、川口市で行われた埼玉県高等学校学校総合体育大会競泳の部で、本校水泳部大村祥平君が男子二百m自由形で見事関東大会出場を決めました。

決勝に進出した大村君は、予選を上回る自己ベストタイムを更新、1分59秒18のタイムで8位に入賞し、関東大会への切符を手にしました。9位の選手との差は、わずか百分の一秒とのことで、勝負強さを発揮したレース展開でした。

7月24日、千葉県国際総合水泳場で行われた第65回関東高等学校選手権では、男子二百m自由形予選第4組に出場し、8位でゴールしました。勉強と部活の両立、そして生徒会長という重責を背負った中で、毎日練習を積み重ねた大村君です。大会では、その成果を存分に発揮してくれました。

特進クラス学習合宿

8月26日～28日の二泊三日で、一・二年の特進クラス合同の学習合宿を実施しました。場所は茨城県の筑波研修センターです。

初日は大学見学で、一年生は筑波大学へ、二年生は（筑波大学は昨年見学済み）茨城県立医療大学と茨城大学農学部へ行きました。

二日目の昼間は筑波大学生命環境系准教授の廣田充先生の「地球温暖化最前線：最果ての地のフィールド研究から分かったこと」という演題の講演を聴き、研究の最先端に触れました。この日は、学習法講座・補習・自習と、丸一日机に向かいました。そして夜は一年生と二年生で小グループを組み、ピアサポート実習を行いました。ピアサポートとはpeer（同僚、対等な人）が互いにsupport（支援、支えること）をすることで、今回は、二年生が一年生の相談に乗ったり、学習面について教えたりアドバイスをしたりする活動を行いました。

最終日の三日目は、午前中は補習・自習で、午後に宿舎を発ち、独立行政法人宇宙航空研究開発機構JAXA（ジャクサ）の筑波宇宙センターを見学し、帰路につきました。

ピアサポートをはじめ、生徒達はとてもよく取り組み、多くの生徒がモチベーションアップなどの成果を持ち帰ることができたようです。

定時制近況

定時制教頭　相模　幸之

定時制課程には、現在95名の生徒が在籍しており、卒業に向けて日々の授業に懸命に取り組んでいます。平成26年度から、本校は本庄・深谷地域における唯一の夜間定時制課程を設置する高校となり、地域のニーズや期待もこれまで以上に大きくなっていくものと思われます。

本校定時制では、国語、数学、英語、体育での少人数授業の実施や、卒業後の就職を見据えた資格取得・検定合格に向けた指導など、生徒一人一人を大切にする手厚い教育活動を展開しています。定時制ならではの家庭的な温かい雰囲気の中、学びの楽しさを再認識する生徒も多くいます。また、十代のみならず、様々な年齢層との交流を通して人間性を深めることができるのも本校定時制の醍醐味です。

先日実施したアンケートでは、約8割の生徒が「定時制の学校生活は楽しい」と回答していました。本庄高校定時制は、生徒たちにとって「生き生きと楽しく学ぶ場」となっています。

「高い目標に向かってチャレンジ！」

母校

「伝統と躍進」

進路指導室から

進路指導主事　新島　善弘

進路室の心配ある事情

入学試験がスタートしました。AO入試、指定校推薦、公募推薦、一般入試など、入学試験の形態も年々変化しています。新教育課程となり、センター試験も変化しつつあります。入試が早期化しているので、どうしても生徒たちは「早く進路を決めたい」という一心で、なかなかセンター試験から一般受験への道を選択しようとしません。確かに、入試が多様化しているので、第一希望に向けて何度でもチャレンジできることは好ましいことかもしれませんが、安易に第一希望を目標とせず、「自分自身を納得させ」進路を決めてしまう、最近の傾向と考えられます。

昼休みや放課後に生徒たちが進路指導室に顔を見せるようになってきました。三年生が中心ですが、なかには二年生や一年生も姿を現します。三年生の主な訴えは、自分自身の進路についてです。概ね、「大学進学を目指しているが、指定校はあるか」、「推薦入試や一般入試で合格できるのか」、「○○大学に行きたいと思っているが、親に反対されている」、「専門学校に行きたいのに、親が大学にいけとうるさい」などです。昨今、大学の置かれている状況は、大きく変化しています。大学数は全国で782校、短大は359校に達し、設置学部数は530学部に達しようとしています。学科も細分化され、学問の専門性が今まで以上に追求されるようになっています。また、文部科学省が、厚生労働省管轄である専門学校をいわゆる「職業実践専門課程認定校」として認めつつあり、専門学校の位置づけも高くなってきています。

進路の決め方

進路は、まず「就職」、「進学」の二通りあります。「就職」は、「民間就職」か「公務員」が考えられます。「進学」は、「大学・短大・専門学校」を考えることができます。どのような進路選択をしていても、いずれ就職します。今、企業や会社等で求められているのは、「コミュニケーション能力」と「教養」、「英語力」そして、「資格」です。進学を考えるとき、生徒自身が希望している大学・短大・専門学校の、職業や資格などの内定率や合格率を必ず調べ、オープンキャンパスなどに参加し、自分自身で情報を収集するように指導しています。厚生労働省は、平成26年3月に大学を卒業した学生の就職状況などを文部科学省と共同で調査し、平成26年4月1日現在の状況を取りまとめました。調査対象は、全国の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の中から、設置者や地域などを考慮して抽出した112校、6250人（調査校112校の内訳は、国立大学21校、公立大学3校、私立大学38校、短期大学20校、高等専門学校10校、専修学校20校。調査対象人員6250人の内訳は、大学、短期大学、高等専門学校併せて5690人、専修学校560人）です。大学等の就職率は、大学（学部）は94・4％（前年同期比0.5ポイント増）、短期大学は94・2％（同0.5ポイント減）、大学等（大学、短期大学、高等専門学校）全体では94・7％（同0.4ポイント増）、また専修学校を含めると94・5％（同0.2ポイント増）。大学卒業者全体に占める就職者の割合「67・5％」（前年同時期の値は「66・0％」）。↖

過去5年間の進路推移

	平成22年度入試		平成23年度入試		平成24年度入試		平成25年度入試		平成26年度入試	
	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人
国公立4年制大学	8	3	15	3	9	5	16	3	8	5
私立4年制大学	189	28	163	28	196	16	175	19	183	14
私立短期大学	17	0	20	2	26	0	22	1	25	0
専修・専門学校	64	2	81	1	53	0	79	4	56	1
公務員・就職	4	1	5	0	9	0	6	1	11	0
卒業者数（浪人は決定者）	325	34	320	32	325	21	323	28	317	20
4年制大学進学者	197	－	178	－	205	－	191	－	191	－
4年制大学進学率	60.6%	－	55.6%	－	63.1%	－	59.1%	－	60.3%	－
浪人他	43	－	36	－	30	－	25	－	32	－
浪人率	13.5%	－	11.3%	－	9.2%	－	7.7%	－	10.1%	－

身の上に心配ある参上

私の父は中学卒業後、高校へは進学せず就職しました。母は、高校を卒業後、服飾の専門学校へ行きながら家事を手伝い、弟妹の世話をしていました。父と母は、昔から「とにかく勉強して、私たちのような生活だけはしないように」というのが口癖でした。

川口にある小さな町工場で働いていた父は日給月給で、私たち家族を養ってくれました。本当に貧乏でした。父は、16歳から60歳まで、小さなネジを一日に数万個生産する従業員2人の本当に小さな町工場でコツコツと働き、いつも、油まみれで、体からは油とたばこの匂いしかせず、そんな父を私は今でも尊敬しています。

母親は、家事にいそしみ、時々、父親の仕事を手伝い、家計を切り詰めながら、教育費を捻出し、本や文房具だけは買ってくれました。そんな母を私は今でも尊敬しています。だから、父のように、油にまみれた地味な仕事はしたくないと心に決め、とにかく勉強をしました。

あまり勉強が好きではありませんでしたが、中学時代から、いわゆる受験勉強をしました。中学一年生で塾に通わされましたが、塾の先生に理不尽なことで注意され一週間でやめました。それ以降、塾には行かないし、自分の子どもたちにも塾は勧めていません。中学三年生だったときは、「君は、第一希望に合格しないよ。辞めた方が良いよ。」と担任に言われ、成績が思うように伸びず、志望校を下げようかと悩んだ中学三年。しかし、その担任をあまり好きでなかったので、悔しくて、下げずに全力で高校受験にとりくみました。無事に第一希望する高校に入学し、ほっと一安心をしてしまい、高校一年一学期は赤点の嵐。でも、無事に進級しながら、高校四年生（浪人）のころ、大学受験に全力をつくしました。長い人生の中で、時には、勉強だけの一年間も、今振り返るといいものです。

生徒達にとって、今こそ、部活動や勉強に時間をかけられる「時」です。本校生に欠けているのは、ガッツです。悔しさをバネに、怒りを力に変えて頑張って欲しいものです。自分自身の力を信じながら、決して過信せず、したたかに、のんびり頑張ってほしいものです。

同窓会の将来について

副会長　長沼　章（高25回卒）

同窓会は現在、狩野新会長でスタートし、一ページにあります役員で組織されています。会長は、企業家で斬新なアイデアと人並み外れた行動力を兼ね備えており、同窓会を盛り上げていくことに、私は熱意を感じています。

新体制では、支部長会を地域ごとに加え、年代ごとに支部を設置することも考えています。確かに年代ごとのほうが、各年度の同窓会が開催されていますので、横の連絡体制が充実すると思われます。今後、総会、支部長会をよりにぎやかなものとし活気ある同窓会としたいものです。

また、学校においても進学重視のカリキュラム、そして文武両道というコンセプトをもって躍進しており、同窓生にとっても鼻が高いと言えます。校長はじめ先生方、事務方のご尽力によるものと感謝する次第です。

同窓生にとっては本庄高校卒業がステータスであるような母校で常にあってほしいわけで、胸を張って本庄高校卒と言える母校であってほしいわけですから母校発展のため同窓会もまた協力を惜しまない、という基本理念を卒業された方々に共有していただきたいものです。

本部役員・支部長会合同新年会
平成２７年１月１７日（土）午後３時
会場：五州園

平成２７年度通常総会
平成２７年６月１３日（土）午後３時
会場：埼玉グランドホテル本庄

☆多くの同窓会員の皆様ご参加ください
詳しくはホームページでお知らせします
（http://www.honko-dosokai.jp/）

世界遺産へ、今こそ読んでほしい
小説「玻璃（はり）の橋」を書いて

関口　房枝（高第14回卒）

私（筆名・関口芙沙恵）は今年の5月、光文社から長編時代小説「玻璃の橋」を刊行いたしました。

これは、二〇〇三年に出版した「修羅の川」の姉妹編ともいうべき作品です。

前作は作者の生まれ育った伊勢崎市境島村（世界遺産・田島弥平旧宅のある旧島村）の人々が、幕末の横浜開港を機に蚕卵紙（蚕種）の輸出に乗り出した、当時の興亡を描いたものです。

生糸や蚕種は輸出品の花形として脚光を浴びたのですが、その影響を受けて国内では生糸不足が深刻になり、伝統ある絹織物の産地、桐生は苦境に陥りました。

横浜開港がもたらした光と影。次は未曽有の苦難に立ち向かった、桐生の人々を書きたい。「玻璃の橋」は、そんな作者の思いをこめた作品です。ぜひお読みになってみてください。

全国書店で好評発売中
（光文社刊）

終身会費納入者芳名

【高11】五十嵐勝美、小暮　和子
【高12】今井　司女、吉田　正保
茂木　国夫、関口　敦子
渡辺三枝子、
【高13】荻原啓治、栗原健昇
川上　恭子
【高14】倉本　勝重、真尾　秀秋
青木八重子、佐田　昭持
【高15】高橋　室生、武藤瑠璃子
田中　光行、上原　絹代
【高16】黒沢千代子、都丸三重子
山本　裕子
【高17】小林　洋子、麻田　春江
鈴木　英子、山地　麗子
【高18】須永　順、内田　廣冶
【高19】和田　昭子、荻野多美江
辻村　好一、伊庭美恵子
松波美栄子
【高20】古澤　高昭
【高36】泉谷　一人
【高52】久保有紀子
【高55】栗原　亮平
【高64】持田侑圭莉
【高65】樋口　祥汰、三浦　武志
飯島　規道、江原　沙樹
鈴木　颯、松野　智
和田山佳苗、榎　さやみ
【高66】丸山翔太郎、佐藤菜々実
江見　昌春、岡田　恵利
武田　美咲、根本　海生
林　香織、森本　優衣
柿沼　貴央、中嶋かすみ
植木　晴久、手計　彩瑛
前場　真衣、黒田　悠人
吉田　沙羅、江利川みどり
粂原　圭貴、町田　晴香
澤田　航平、持村　浩嗣
市原慎之佑、横山　由莉
柳川寿希也、森　亜希子
塩谷　佑介、渋沢　冴香
森田　康介、黒沢　郁美
村田　薫、新井　花衣
坂本　由莉、成塚　万貴
久保カレン、山田　陽色
田島　啓子、原澤あかね
【中13】加島　敏
【中16】大和　安雄
【女11】温井和久里
【女15】金井十四子
【女16】高橋三四子、吉田　文子
【女20】古市ミトリ
【女22】町田まつ子
【定11】浅尾　武司
【定60】松本　博
【定65】工藤　征一

平成25年度収支決算書

自 平成25年4月1日　至 平成26年3月31日

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	比較増減額
入会金	672,000	668,000	△ 4,000
終身会費	800,000	1,210,000	410,000
年会費	20,000	2,000	△ 18,000
寄付金	10,000	32,172	22,172
繰入金	100,000	0	△ 100,000
雑収入	2,592	76	△ 2,516
繰越金	455,408	455,408	0
合計	2,060,000	2,367,656	307,656

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	残額
総会費	100,000	33,725	66,275
組織編成費	50,000	16,000	34,000
会報発行費	1,350,000	1,219,048	130,952
記念品費	303,000	294,320	8,680
母校助成金	50,000	50,000	0
会議費	20,000	15,464	4,536
交際費	50,000	40,000	10,000
事務雑費	30,000	19,660	10,340
育英資金	50,000	50,000	0
予備費	57,000	0	57,000
合計	2,060,000	1,738,217	321,783

Ⅰ 2,367,656－1,738,217＝629,439円（翌年度繰越し）
Ⅱ 定期預金　22,398,739円
Ⅲ 郵便局振替口座　127,710円
Ⅳ 同窓会会計総額（平成26年3月31日現在）
Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＝ 23,155,888 円
※平成26年3月31日現在　終身会費納入者　5,913名

会費納入についてお願い

同窓会では、母校の充実発展に寄与するとともに、会員相互の親睦向上を図ることを目的に活動、努力しておりますが、基礎財源は終身会費（一万円）です。

会費未納の方のご協力を何卒お願い申し上げます。納入の際には必ずご送付申し上げた振込用紙をご使用ください。なお、念のため加入者・口座番号をお知らせいたします。

加入者名　埼玉県立本庄高等学校同窓会
口座番号　〇〇一四〇―六―六九四三五一（ゆうちょ銀行）